

### 3. 藩主の寵愛

井原は藩主からの信頼が厚く、特に松平光通と昌親から寵愛を受けていたようです。

光通は、師弟の契りを結んでからは、自分の考えていることは何でも明かしている、と井原に吐露しています。軍学の師弟関係にとどまらない心の絆が見て取れます。

昌親は、狩野元昭に67歳の井原の肖像を描かせ、井原の自賛後は、長くこの肖像が藩の御土蔵で管理されました。昌親隠居後、井原はその使者として江戸城に登り、將軍の御目見も果たします。隠居藩主の使者登城は先例のないことでした。



井原番右衛門肖像

延宝5年（1677）成立

軍学の師らしく、陣羽織に両刀を佩き、弓矢を帯した姿に描かれています。

作者の狩野元昭は、大安寺開基・松平光通および同寺開山・大愚宗築の肖像も手掛けた御用絵師であり、昌親が井原を大事にしていたことがうかがえます。

なお、本図は明治43年（1910）刊の『越前人物志』に掲載された図版ですが、原本は所在不明となっています。